

第2回第3次防府市子ども読書活動推進計画策定協議会 会議記録

- 1 開催日時 令和元年10月7日(木) 午前10時～11時30分
- 2 開催場所 市役所1号館3階南北会議室
- 3 出席人数 16人
- 4 概要 (発言要旨の文書表現は、簡略化しています)

※協議会の会議記録の公開について

会議記録の「公開」については、委員に諮り、賛同が得られた。

《会長挨拶》

《資料確認》

「第3次防府市子ども読書活動推進計画の素案」は、前回の会議でお寄せいただいた意見と、その後に取り組み等御意見としてお寄せいただいたものを反映させて作成し、事前に意見連絡票と一緒に会議資料としてお送りした。

「第3次防府市子ども読書活動推進計画(素案)修正箇所」資料1は、会議前に寄せられた意見により修正したものの一覧で、削除したものは取り消し線、付け加えたものは下線を入れた。字句の修正や表現の変更で、計画の内容そのものには直接関わらないものをまとめた。

(1) 第3次防府市子ども読書活動推進計画の素案について

○事務局

第3次防府市子ども読書活動推進計画の素案に添って説明。

p.18 ③子どもの読書活動の普及啓発に改めた。

p.22 「わらべうたを導入として活用しながら」とした。

p.25 前案では高等学校を外していたが、このところ高校生が市立図書館での職場体験をしたり、市立図書館からイベントのご案内をしたりしているため、読書活動の連携ということで入れた。読書活動の啓発等もしているのも、直接学校にということではないが、今後も図書委員の活動との連携等をしていきたい。

p.29 学校図書館振興計画という項目を入れてほしいという御意見があり、計画という形にできるか検討した結果、前計画では学校図書館と市立図書館とのネットワーク・システムの構築とか、学校図書館の支援体制の整備ということで、年次的に進めていった部分があり計画にしたが、今後は、ソフト面で学校図書館の活用を支援することになり、年度ごとに活用を検証しながら方策を検討していくため、複数年にわたる計画ではなくなるので、今回は入れていない。その代り授業における学校図書館の計画的な活用ができるよう進めていく。

p.31 幼稚園連盟や保育協会の御協力をいただき、幼稚園・保育園それから認定子ども園における読書活動や蔵書状況がどうなっているかを把握させていただいた。その中

で、資料の充実や設備の整備に関する公的な支援を加えて欲しいという御意見があった。小・中学校の学校図書館は、図書標準など冊数の基準があるが、幼稚園・保育園に関しては、その基準がなく、支援が必要かどうかの判断が、今の時点ではできないので、計画の文言から外した。

p.39 この計画の期間に指標となる目標を設定してはどうかという御意見があったので、今回は「学校図書館における小学生一人当たりの年間貸出冊数」、「中学生一人当たりの年間貸出冊数」、「市立図書館における18才以下の館外貸出者数」と「児童書の館外貸出冊数」目標値として設定した。

全体に統計や数値データを加えている。最終的には余白の部分に、写真等も加えて状況が分かるようにしたい。

●議長

第1次・第2次計画におきましては、学校図書館振興計画も含まれており、比較的大きな進展があった。今回の第3次については、現状の継続・発展、内容の充実に努めていこうという計画になっている。

写真の話も出たが、大きな余白があり、第2次計画の中でも写真等が掲載されると計画の文章に対する親しみも出てくる。活字と表だけだととっつきにくい面もあるので、最終的には、写真の掲載をお願いしたい。

●委員

p.39 計画推進の目標で冊数が出ているが、内容は見ないのか。例えば、小学生なら学校図書館にマンガがあるが、マンガばかり借りて何十冊というのが本当にいいのか。あと、市立図書館の利用者数を増やすにしても、DVDを増やせば増えると思うが、DVDの利用者を一人としてカウントしていいのか。

受け身ではない、自分から追い求めてする読書でないと知識がつかないと思うので、詳細について出せないものか。

○事務局

小・中学校の図書室には、マンガはあまりおいていない。歴史や伝記の学習漫画や、学習に参考になる作品は多少おいているが、蔵書のほとんどが活字の図書なので、マンガばかり借りるということはあまりないと考えている。

図書館については、DVDは館内閲覧のみなので、館外貸出にはカウントされていない。

●委員

1時間あれば、館内で本を読むことができるが、その場合、カウントしないのか。

○事務局

利用者が館内で何冊読まれたかはわからないので、入館者数としてカウントする。館外に貸出されなければ数が把握できない。

●議長

目標値が実績値に比べて、あまり伸びていないという意見もあろうかと思うが、現状で

は難しいところなのだろう。

本来でいえば、計画の推進に向けてということで、図書館の資料費や職員の配置について、計画的に充実させていく目標値があればいいと思うが。財政的に困難か。

●委員

p.21 子ども読書フェスティバルの中で「読み聞かせ」とあるので、「読み聞かせ等」とした方が良いのでは。

高等学校ということになると、わからない面もあるが、このくくりでどうか。

●委員

内容を見ていくと、高等学校については特に触れていないので特にどうこうとならないと考えている。ただ、小・中学校の取り組みの中に高校生も協力するというスタンスと理解している。この計画の中身に具体的に高校が入っていくのは難しいと思う。

●委員

充足率の数字も、小・中学校はすぐ出るが、高校の場合は、難しいと思うが。

●委員

ここに具体的に入れるというのは、どうするかという話になる。市として入ってくるというのは、なかなか難しいので、中身から外れているのではないかと思う。

●議長

市立図書館の中で、ヤング・アダルト・サービスには触れているので、中高生も対象になっているといえる。

高等学校の図書館は、山口県教育委員会の所管になるので、山口県の子ども読書活動推進計画の中では、不十分ではあるが、高等学校に触れている。

●委員

義務教育の現場では、学校図書館の図書標準があり、充足率が計られている。幼稚園・保育園では基準がないので、7月から9月まで市内の16幼稚園に実態調査をした。その結果の中で、園によって蔵書数にばらつきがあるが、園児一人当たりの絵本の数は、11冊。過去3年間の絵本の購入に充てた金額は、293万5千円。これは、1園あたり18万3437円で、1年間あたり6万1145円。これでは、子どもたちの読書環境を支える部分が弱いと感じる。こういった状況を、市としてはどう受け止めているか。

○事務局

幼稚園の園児一人当たり11冊ということだが、保育協会でも調査をしていただいた。保育園（所）では、一人当たり12冊程度ということで同程度である。

基準がどうかということでは、子どもたちの周りにたくさんの本があった方が良く思うが、それについては、内容も関係してくる。どのように本に接するかということも考えなければならない。

今、各幼稚園・保育園では、市立図書館の貸出文庫等を利用して蔵書を補っている園もあり、また直接、図書館で、子どもたちが本を借りるということもあるので、当面は、市

立図書館等をご利用いただくとか、一部では学校図書館を開放しているところもあるので、そちらをご利用いただくとか、公民館の地域文庫にも絵本を配置しているので、そういう現在の仕組みの中で、小学校に上がる前の子どもたちの読書環境を整備していけたらと考えている。

●議長

確かに、絵本購入費が1園当たり年6万円では少額だが、資料費の補助が市からあれば、対応も違って来るかと思う。財政状況があるのでどうか。

○事務局

幼稚園児・保育園児がたくさんの本に親しめるようにと考えているが、予算上の問題もあるが極力努力したい。

●議長

幼稚園・保育園だと、絵本等の傷みもかなりあると思うし、蔵書の更新等も大切になってくると思う。市としても、資料費の補助を御検討いただければ。

●委員

確認ですが、3小・中・高等学校の項の所で高等学校について、第2次計画の時は、入っていたのか。

○事務局

入っていた。p.28のところ。第1次計画では、高等学校が入っていなかったが、高等学校も加えるべきだということで、第2次計画から入っている。

●委員

前からの流れで入っていれば、除けるのは難しいということだが、高等学校におけるということになれば、取組みの中では高等学校は除けて、市立図書館のヤング・アダルト層の中に盛り込まれると思った。高校生が関わるとすれば、その中で関われるのではないかと思うので、そう理解する。

○事務局

直接、学校においてというよりは、市立図書館や地域との連携の中で、高等学校への働きかけや連携がとれればと考えている。

●議長

p.41の推進体制の図の中にも高等学校が入っているが、これも第2次計画作成の際に入れて欲しいという要望があったため。

中高生の図書館に関する意見発表の中で、おそらく図書委員であろう高校生が、図書館が大変役に立っていると言っていた。県内の図書館でも、高校生がビブリオバトルに参加したり、図書館まつり等でボランティアとして参加したり、いろいろな形で連携ができると思う。

●委員

全体を通しての意見だが、やはりアウトプットが少ない気がする。前回の会議では、読書感想文やビブリオバトルでアウトプットをしていると言われたが、読書感想文やビブリオ

バトルは、ハードルが高すぎると思うので、気楽に（感想を）話せる場が必要だと感じる。計画の中で、同学年が感想を話すコミュニケーションについて記述があるが、下関の読書会に行くと、中学生も来ている。大人に混じって話すことによって、知識の格差があるため、自分の無知に対して最初は恥ずかしがるが、知らないことがたくさんあることを知っていくことが楽しくなり、自分から本を読んでいくというようになるので、気軽にアウトプットできる交流の場があることが本当の読書を進める形になると思う。年齢や知識格差を気にせず、少人数でもよいので、みんなが交流できる場を促進していただければと思う。

●議長

市立図書館でも、もう少し中高生の読書会等への呼びかけ等を、今後、検討していただければ。

(2) パブリックコメントの実施について

○事務局

今回の会議で出た意見等を踏まえ修正を行った後、最終的に計画の素案の最終版及び概要版をセットでパブリックコメントにかける予定。

これらについては、11月下旬に議会で説明をして、12月中旬から1月の中旬まで、約1か月間のパブリックコメントを実施する。結果を踏まえて、2月中旬ぐらいに第3回の策定協議会を開催し、対応について御説明できたらと考えている。

●議長

今日の協議を踏まえて、若干の語句の修正等があるが、パブリックコメントに提出する素案は、委員に配付されるか。

○事務局

最終案をお送りする。

●議長

それについて意見があった場合はどうなるのか。

○事務局

御意見があつて、修正しなければならないようであれば検討する。

●議長

その部分だけ刷りなおすことになるかと思うが、発行は3月末になるのか。

○事務局

そのように考えている。先ほど話したように、次回の会議は、パブリックコメントを受けての会議なので、2月を予定している。